

マス沢整備構想ワークショップの取り組みについて

北陸地方整備局 湯沢砂防事務所 調査課 専門員 帆苺 正敏

1. はじめに

近年、社会資本整備における構想、計画段階からの一層の説明責任の向上が求められてきている。「ワークショップ」（以下、「WS」という。）はその効果が期待される手法の一つであり、地域住民と行政が意見交換しながら計画づくりを行うものである。当事務所では、魚野川水系のマス沢（新潟県南魚沼市）において、地域の安全確保と豊かな自然環境とが調和した砂防対策について、砂防事業の実施の有無も含め、WSにより地域住民から様々な意見を出して頂きながら整備方針を検討しており、整備を行う際には地域の財産として誇れるものとするを目的として実施している。

本WSは平成17年11月の第1回から現地視察も含めてこれまでに7回開催しており、今後も継続して開催する予定であるが、本論文ではその取り組みの中間報告として、WSの実施概要、得られた教訓、今後の課題などについて報告するものである。

2. マス沢周辺の概要

マス沢は流域面積 2.99 km²、延長 2.8 km、平均河床勾配 1/3 の急溪流である（図-1）。マス沢の位置する水無川上流域は水無溪谷と呼ばれ、清流と豊かな自然環境が残された地域である。マス沢周辺では南魚沼市の「越後三山森林公園整備構想」によりキャンプ場（写真-1）やサイクリングロードなどが整備されており、県内外から自然とのふれあいを求めて多くの観光客が訪れている。また新潟県が「生活環境保全林整備事業」により親水護岸や遊歩道などの整備を進めている。

一方で、マス沢の中流部には大量の不安定土砂（写真-2）が堆積しており、豪雨時等にこれらの土砂が流出した場合、合流点付近に計画されている施設などが被害を受ける恐れがあること、またマス沢や水無川を訪れる人々の安全を確保する必要があることから、施設整備の必要性、緊急性が高い溪流である。



図-1 マス沢の位置



写真-1 森林公園キャンプ場



写真-2 マス沢中流部の不安定土砂

3. マス沢整備構想WSについて

3. 1 メンバーの決定

WS の開催にあたり、地元の状況に精通している南魚沼市役所からメンバーを推薦頂き、設立趣旨を記した開催案内を送付し参加を呼びかけ、地元在住の NPO や住民代表など 27 名の方々に参加して頂くこととなった。

3. 2 全体スケジュール

平成 17 年度に WS を 4 回、平成 18 年度に現地視察会及び WS を 3 回程度開催した上でマス沢整備構想を作成し、施設設計に反映させていくこととしており、1 年程度かけて進める予定としている。

表-1 WS の全体スケジュール

回数	開催日	討議内容
第1回	H17.11.17	マス沢周辺の現状と課題、整備の方向性について
第2回	H17.12.8	第1回WSの意見のまとめ マス沢における砂防対策について マス沢周辺における関係計画について
第3回	H18.1.26	環境整備等との調和を図ったマス沢周辺における砂防対策の方向性について
第4回	H18.2.23	マス沢の砂防対策の具体的なイメージについて
現地視察	H18.6.24	現地視察、砂防対策のイメージの確認
第5回	H18.7.13	現地視察のまとめ、砂防施設整備について
第6回	H18.8.10	砂防えん堤の整備方策について
第7回	H18.9 (予定)	砂防施設整備計画について マス沢整備構想について

3. 3 WS の運営

WS は WS メンバーと中立的な立場で WS の進行を担当するファシリテーター(コンサルタント)によって運営している。住民同士の自由な議論の場を確保し、また活発な議論進行のため、行政(南魚沼市、湯沢砂防)は基本的に住民からの疑問や質問に回答する立場で参加した。WS は 7~8 人のグループに分かれて行い、メンバー一人一人が自分の意見を付箋紙に書いて、グループの中で発表しながらマス沢周辺の地図に貼り付けた後、意見交換を行いながらグループとしての意見をまとめ、その結果をグループの代表者が全員の前で発表するという流れで行った。(写真-3、4、図-2)



写真-3 グループ討議

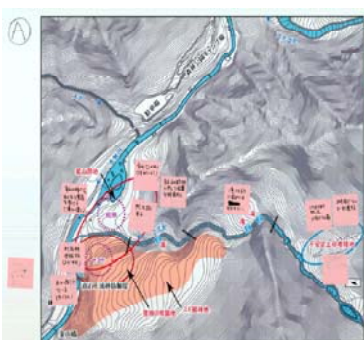


図-2 意見を地図に貼付け



写真-4 グループ討議結果報告

3. 4 これまでのWSの実施内容

これまでの WS で検討した内容や決定・確認したことを表-2 に示す。

表-2 WSの実施概要

回数	開催日	検討・実施内容	決定・確認したこと
第1回	H17.11.17	【説明】 ・マス沢周辺の概要や砂防事業の概要、関連計画について（湯沢砂防） 【意見交換】 ・マス沢周辺の現状と課題、整備の方向性について	・H18年度に現地視察会を開催する。 ・H18年度に環境調査を実施する。 ・十分な時間をかけて議論できるように、スケジュールを変更する。 ・次回WSでマス沢周辺の関連計画や土砂災害、砂防施設について勉強会形式で行う。
第2回	H17.12.8	【説明】 ・マス沢周辺における関連計画について（南魚沼市） ・マス沢における砂防対策について（湯沢砂防）	・質問に対してその場で回答し、意見については引き続きWSで話し合っていく。 ・次回はWS形式で話し合いを行う。
第3回	H18.1.26	【説明】 ・マス沢周辺の環境について（湯沢砂防） 【意見交換】 ・環境・防災・利用の調和を図った砂防施設整備について	・砂防施設を整備するのであれば、地域にとって良いものとしていくことを確認した。 ・環境調査に加えて、鉱山跡地調査を行うこととした。 ・地元説明会を開催することとした。
第4回	H18.2.23	【意見交換】 ・環境・防災・利用の調和を図った砂防施設整備について	・自然らしさを失わず、他に誇れるような整備としていくことを確認した。 ・現地視察については、雪解け後に詳しい方に案内して頂き、鉱山跡、砂防堰堤の候補地などを視察する。
現地視察	H18.6.24	・現地視察、砂防対策のイメージの確認	・マス沢周辺の豊かな自然を再認識した。 ・不安定土砂堆積地の規模の大きさから、土砂災害の危険性を改めて認識した。
第5回	H18.7.13	【意見交換】 ・現地視察会のまとめ ・砂防施設整備について	・土砂災害防止やマス沢周辺に訪れる人達の安全確保のためにも砂防えん堤の整備が必要。 ・マス沢の豊かな自然を極力残し、砂防えん堤の整備を活かした利用もできるようにしたい。
第6回	H18.8.10	【説明】 ・砂防えん堤の整備イメージについて 【意見交換】 ・砂防えん堤の整備方策について	・砂防えん堤の整備イメージ（えん堤形式、景観対策等）を確認した。 ・次回は周辺も含めた全体整備構想について話し合いを行う。

3.5 WS便りの配布

WS参加者以外の関係集落の方や欠席したWSメンバーに対し、開催状況や意見交換の内容等について周知し、またWSメンバーと行政の認識を共有するため、各WSでの議論の内容や湯沢砂防からの説明などをまとめたWS便り（図-3、4）を作成し、配布した。



図-3 WS便り（第4号）表面



図-4 WS便り（第4号）裏面

3.6 これまでのWSで得られた教訓

これまでのWSで得られた今後に向けての教訓や留意点を以下に記す。

- ・初回のWSでは、メンバーの選定経緯、メンバー以外の関係集落への情報提供や意見収集の必要性など、WSの進め方について多くの厳しい意見が出された。これに対し、メンバーは南魚沼市からの推薦により決定したこと、関係集落への説明会を実施すること、WSメンバー以外の意見収集方法について検討すること、などを時間をかけて説明し理解を頂いたと考えているが、行政に対する反発や不信感を招かないためにも、住民は結果以上に手続きの

公正さを重視していることを十分に認識しておくことが必要である。

- ・マス沢の砂防対策は地元からの要望事項であったが、一部住民から土砂災害の危険性や砂防対策の必要性が理解できない、周辺の公園整備の状況がわからないという意見が出るなど、議論を進める上で必要な基礎知識や情報提供が不十分であることがわかった。そのため、第2回 WS では砂防事業やマス沢における砂防対策の必要性、周辺の自然環境の状況、公園整備等の関連計画について勉強会形式で行い、行政の持つ事業に関する情報をできる限り提供し、住民との共有化に努めた。また、事業を実施しないという選択肢も含めて議論していきたいという考えを説明し、事業を無理矢理進めようとしているのではないかという住民の懸念を払拭するよう努めた。その結果、砂防事業やマス沢に関する知識や関心を深めて頂き、第3回 WS からは行政主導ではなく WS メンバーが主役という雰囲気になり、活発で有意義な意見交換を行うことができた。
- ・初回の WS において、全体で4回の WS により整備構想をまとめるスケジュール案を示したところ、急ぎすぎではないかという意見が出された。また、地元在住の WS メンバーでもマス沢を見たことがない、場所がわからないという方も多かったことから、当初のスケジュールを変更し、現地視察の実施も含めて計8回の WS により十分な時間をかけて議論することとした。現地視察では砂防えん堤の計画地や不安定土砂堆積地の状況などについて説明し、土砂災害の危険性についても理解を頂いたと考えているが、行政側の都合でスケジュールを決めるのではなく、住民の意見を受け止め可能な限り柔軟な対応を心がけることが、信頼関係の醸成につながると考える。

4. 今後の課題

今後の課題として、主として以下の4点が考えられる。

- ・水無川流域の住民に対するアンケートの実施により、WS に参加していない関係住民の意見や要望も把握して、整備構想づくりに反映していく。
- ・WS 参加者に対して毎回行っているアンケートをもとに WS の効果や満足度、課題などを分析し、管内における今後の事業実施に反映させていく。
- ・WS で出された意見が施設設計にどのように反映されたのか、結果を住民にフィードバックしていく。
- ・必ずしも発生頻度の高くない土砂災害の特性や砂防事業の必要性について、住民にわかりやすく理解して頂くために継続的に説明を行っていく。

5. おわりに

今後の WS でさらに議論を深め、とりまとめた内容を施設設計に反映していく予定である。マス沢を将来にわたって地域の財産として誇れるような整備としていくために、得られた教訓や課題を念頭に置き、努力していく所存である。